



## 第57回「おかねの作文」コンクール

### 特選 文部科学大臣賞

# 「株式」を通して

富山県・片山学園中学校 3年 中村 有里

これは私が「株式」を通して、大切なことに気づけた出来事です。

最近、学校の社会の時間に株式学習ゲームをしました。このゲームでは、実際の株価に基づいて株式の模擬売買を行うというものです。各班に仮想所持金1,000万円が与えられました。仮想ゲームだとはいえ1,000万円を保有していると思うと、現実味のない数字に重々しさを感じましたが、今からこの1,000万円が増えるかもしれないと期待を抱くと、緊張と同時に少し胸が熱くなりました。私は張り切って、班員と、「学年で一番お金を増やそう」と目標を立て、どの株を買うべきか真剣に議論しました。全員が「株を買う」という経験がなく、グラフの形だけで上がりそうな3つの株を買いました。そして表示された、1,000万円から数万円になったという画面。操作ひとつで大金が手元から無くなったことを実感させられ、恐ろしくなりました。それでも慎重に選んだ株なので、後戻りはできません。私たちは毎日、1日に何度もグラフを確認しました。

最初の2週間、グラフは順調に右肩上がりとなり、1,000万円が1,200万円を超えるまでになりました。ランキングでも、私たちの班が1位になり、皆で大喜びしました。しかし株価は秒単位で変わるもの。ましてやグラフの形だけで安直に決めた株。お察しの通り、次の週には900万円にまで下がってしまいました。私の選んだ株が急落していったのです。たった数日で約300万円を失い、ランキングも最下位に転落しました。私は自分が選んだ株のせいでお金を減らしてしまったと感じ、罪悪感と喪失感さいなに苛まれました。株＝難しくて恐ろしいもの、になってしまった私はもう二度と株をしたくないと思いました。

夏休みに入り、そんな私に母は言いました。

「株やってみない？口座も作ったよ。」私は仮想株式で300万円を失ってしまった経験を話しましたが、母は「しっかり勉強して学べば怖くないよ」と励ましてくれました。初めは乗り気ではなかったものの、悔しい思いもあった私は、

母の言葉を受けて株について勉強しようと決意しました。

まずは本屋で株の本を買いました。普段なら本は母に買ってもらっていましたが、今回生まれて初めて自分のお金で本を買いました。株式でお金の重みを知り、今まで簡単に母に物を買ってもらうようにせがんでいた私を恥ずかしく思ったからです。また、自分のお金で本を買うと、買っただけで満足することがなく読み続けられそうだと思ったからでもあります。

そして夏休み中、本格的に株式投資を始めました。本や四季報、ニュース、グラフを参考にしながら、母と一緒に3つの株を選びました。今回は前回の反省点を活かして基礎から勉強しました。

現在、株を始めてから3週間で5万円増えました。順調に増えたわけではなく途中で暴落した週があり、数万円減ることもありました。今までの私なら焦ったり、過度に喪失感を感じていたと思いますが、きちんと毎日ニュースを見て理由を理解すると、過剰に不安になることもなく、世の中の大人たちのみる社会に参加できているような感覚になりました。

株式を通じて私は4つのことを学びました。まずはニュースの重要性。社会科でいつも習う歴史とは違い、株式は「リアルタイム」の情報が必要なので新聞やインターネットのニュースをこまめにみるのが重要です。次に、失敗の必要性。失敗して初めて学ぶことがあり、それを活かして成長できることです。初めの失敗がなければ私は株からずっと距離を置いていたと思います。3つ目に、立ち直る姿勢。失敗から逃げるのではなく、また、苦手な物と完全に距離を取るのではなく、何が起こったのかを理解し、次の行動に移すことの大切さに気づきました。最後に、お金の重み。キャッシュレス決済が普及した今日、画面上に映る数字は現金よりも価値を軽く見がちですが、失うことでその重みを実感しました。

株式だけにとどまらず、これらの教訓を活かして、これから様々なことにチャレンジしていきたいです。